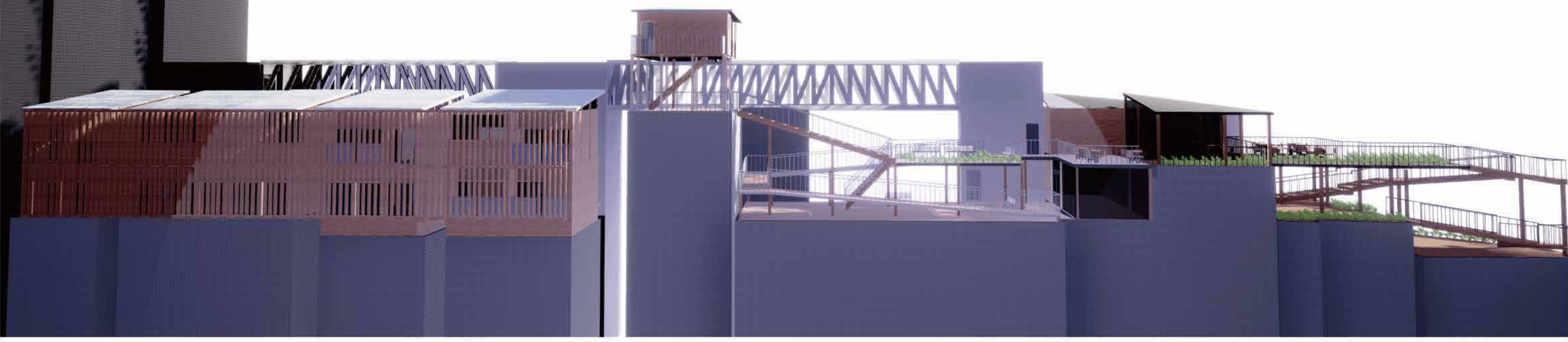
屋上連担増築による用途積層型街並建築

都市デザイン研究室 CY15037 松本宗磨
指導教員 前田英寿
副査 桑田仁



研究の背景

私は今回の卒業研究で千葉県柏市の駅近商業地域における“屋上連担増築による用途積層型街並建築”を設計した。
近代ではまちづくりにおいて個々の生産性を上げるために建物や街区など用途の純化が推し進められてきたが、生産性を上げる反面、用途の純化は街や都市が本来持っている性格である自由な取引ややり取りが損なわれた。
また用途が純化しているため日中と夜中での人口差が激しくなり、その結果として、街全体としての賑わいが失われていった。
そこで、建物や街区を純化するのではなく秩序を保たせながら複合化（ﾐｸｽﾄﾕｰｽ化）することで街の賑わいを活性化させようと考えた。

柏駅中心市街地

概要
首都圏主要駅をもって商業都市として発 展してきた。柏の顔でもあった駅前のデパートが閉店し、商業衰退の兆候と捉えられた。また、高層マンションが商業地域に多く建ち始め商業 と住環境の軋轢が生じている。

柏駅西口地区
高層住宅が少なく中低層住宅が多く駅近にも柏に根ざした店舗が多いが公共空間に休憩できる場所や自然が少ない
柏駅東口地区
商業地域だが高層集合住宅が多く、大通り から奥に入ると住宅街に入り個性的で魅力のある店が多くある。

柏駅西口地区

柏駅東口地区 1

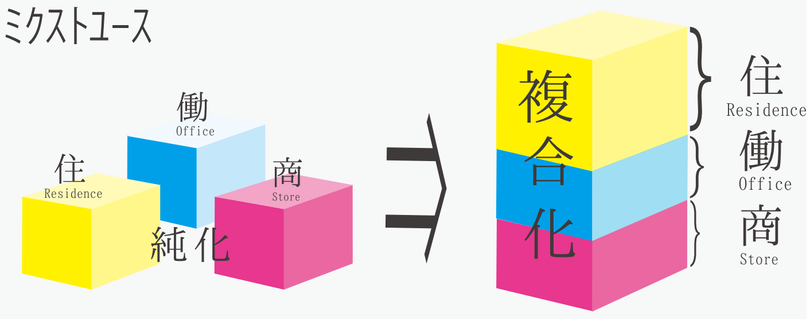
柏駅東口地区 2

計画対象地

旧水戸街道があり人通りや車通りが多く住宅地域と商業の入り混じったエリアになっている。

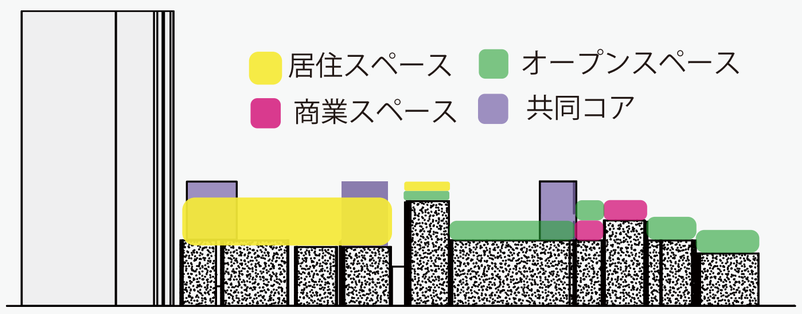
コンセプト

ﾐｸｽﾄﾕｰｽ



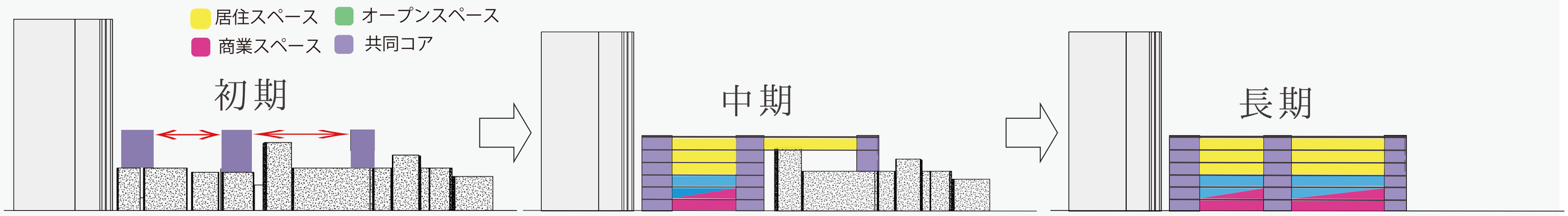
昼夜人口の差を軽減するためにポートランドのミクストユースを対象地に合わせた
1･2 階を商業、2 ～ 3 をオフィス、４階以上を居住の層

余剰容積率の増築

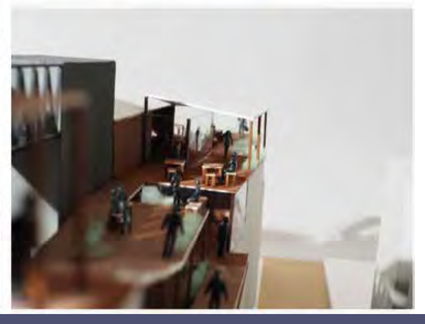


余剰容積分を使用した
垂直動線は敷地内にある駐車場を利用した三本の共同コアを使用する。

屋上の連担



本研究でおこなうのは初期段階である。
対象敷地にある駐車場を利用して三本のコアを差し込み上空で繋げることで細長い対象敷地内での水平移動を容易にした。

また、屋上にパブリックスペースを設け、そこに屋上緑化を行うことで柏で問題視されている自然の少なさの解決を試みた。
この三本のコアは既存とは独立して建てている為、
建て替えの時期になったら既存建築物と増築部分を除けば、三本のコアは残り新しく床をコア同士で繋げて建築できる。

模型写真